

道徳科指導案

日時 平成29年2月6日(月) 3校時
児童 5年生
授業者
授業場

- 1 主題名 「『許す』ということ」 【B 相互理解, 寛容】
2 資料名 「ブランコ乗りとピエロ」(『私たちの道徳 小学校5・6年』)

3 本時のねらい

ブランコ乗りのサムとピエロのやりとりから、『許す』ということそのものの価値や、『許す』という判断の中にある多様な価値観について多面的・多角的に考えることを通して、『許す』を支える「謙虚な心」「相互理解」「寛容の心」等の大切さや難しさを感じ、自分と異なる意見や立場を大切にしていこうとする態度を育てる。

4 主題設定の理由

(1) 主題・資料

小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 高学年 【A 相互理解・寛容】

『自分の考えや意見を相手に伝えるときも、謙虚な心を持ち、広い心で自分と異なる意見や立場を尊重する。』

この段階においては、自分のものの見方や考え方についての認識が深まることから、相手のものの見方、考え方との違いをそれまで以上に意識するようになる。また、この時期には、考えや意見が違う者同士が接近し、そうでない者を遠ざけようとする行動が見られることがある。そのような時期だからこそ、相手の意見を素直に聞き、なぜそのような考え方をするのかを、相手の立場に立って考える態度を育てることが求められる。指導に当たっては、広い心で自分と異なる意見や立場を尊重することで、違いを生かしたよりよいものが生まれるといったよさや、相手の過ちなどに対しても、自分にも同様のことがあることとして謙虚な心、広い心で受け止め、適切に対処できるように指導することが大切である。

内容項目【B 相互理解, 寛容】は、中学年においては、今回の改訂で新たに加わった内容項目であり、本校においては中学年段階でまだ設定していない。高学年においては、計4回の設定となっている(5学年2回, 6学年2回の設定)。中学年で実施していない項目であること、高学年で4回設定してあることから、発達の段階や児童の実態を考慮しながら計画的・発展的に指導をしていく必要がある(本時は2回目にあたる。1回目は「すれちがい」(学校図書)を用い、春の試行授業として実施)。

今回扱う資料は「ブランコ乗りとピエロ」(『私たちの道徳 小学校5・6年』)である。概略は以下のようになっている。

- ①サーカスのリーダーであるピエロは自己中心的な振る舞いをするブランコ乗りのサムに一方向的に腹を立てている。
- ②サムが誰よりも真摯に演技に向き合っていることに気付いたピエロは、サムを受け入れ、サーカス団の一員であることを諭し、その後2人で朝まで語り合う。
- ③一ヵ月後、都での最後のサーカスの日、2人で共演するブランコ乗りとピエロの演技に大きな拍手が送られる。控え室は、団員たちの明るい笑い声に包まれていた。

本資料はピエロの心の動きなどから、人に広い心で接して、自分と異なる立場や考えを受け入れることの大切さについて深く考えることができる資料である。

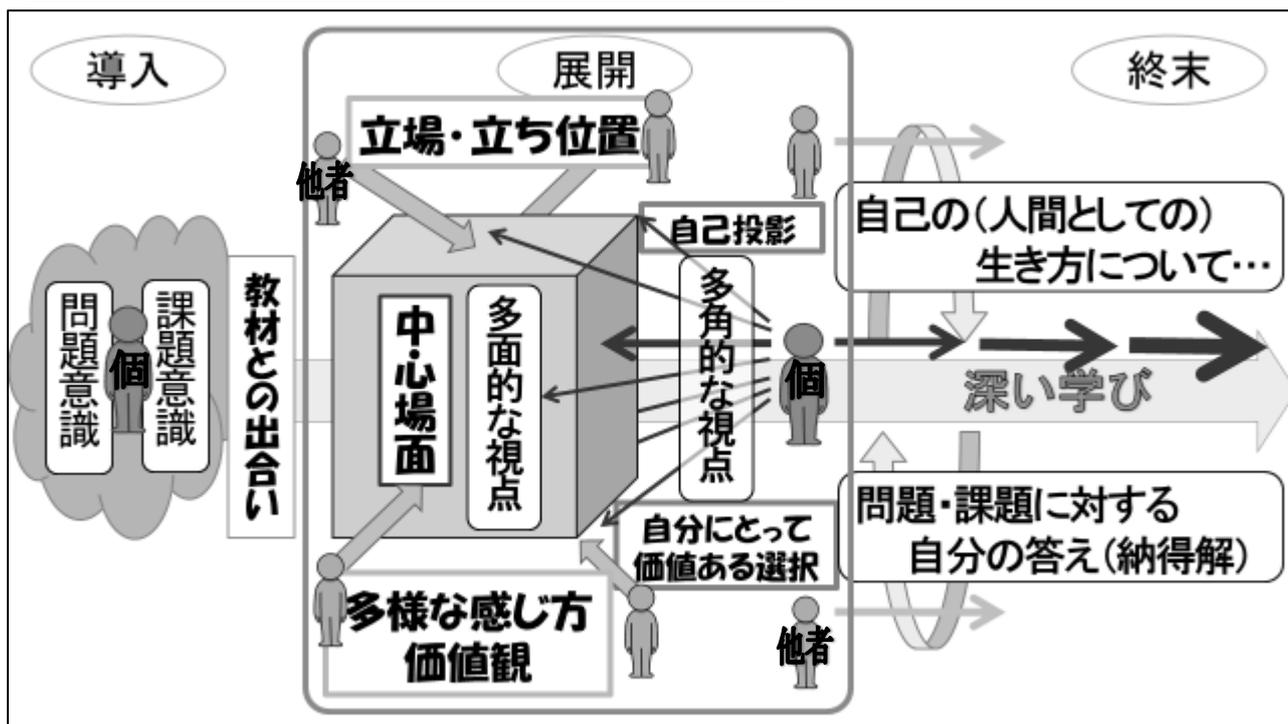
(2) 本時で目指す児童・生徒像

『許す』と『許さない』の判断規準(二項対立的構造)はどこにあるのか、『許す』ために必要なこととは何なのか、本当に『許せない』こととは何なのか等、自分(ピエロ)と他者(サム)の立場を置き換えたり、第三者(団員)という客観的な立ち位置から二者のやりとりを捉えたりすることを通して、『許す』という行為の意味や価値を多面的・多角的に考え、捉え直し、自己の生き方へとつなげていく姿

(3) 指導観

以上を踏まえ、本時における「見方・考え方」と「対話的な学び」との関係性を整理し、研究に関わる具体的な手だてを以下に述べていく。

本時における「見方・考え方」と「対話的な学び」との関係性



本時における「見方・考え方」は、『許す』という行為の意味や価値に対する感じ方や価値を支える価値観の多様性に気付き（多面的）、それらの中から自分にとって価値あるもの（現在の自分にとって課題になっている or これまで大切にしてきた or これから大切にしていきたい等）を選択・判断すること（多角的）である。価値観の多様性に気付くためには、多くの視点が必要になるが、立場・立ち位置が不明瞭なまま話合い活動（「対話的な学び」）を進めると、根拠が曖昧になるだけでなく、議論の軸がぶれ、多角的思考を促すことに無理が生じてしまう（深まり・広がりがない中で選択することは表面上の嗜好性に左右されてしまうという意を含む）。中心的場面における発問・補助発問・問い返しを通して、立場・立ち位置を明確にしたり、転換したりしていく中で、考えたり議論したりする論点を明らかにし、話合い活動の中から、価値の本質や価値観の多様性に気付くことができるようにしていく。また、全体交流のみならず、意図を明確にしたペア・3人交流を位置付けることも重要になる。このような教師のかかわりにより、「見方・考え方」を内包した思考を引き出す「対話的な学び」が成立し、ねらいとする価値の側面から自己（人間として）の生き方を見つめる姿につながっていくと考える。

立場・立ち位置を明確にした中心発問の吟味 ～Ⅰ

★中心発問①：「なぜピエロはサムを『許す』ことができたのだろうか？」

★中心発問②：「『許さない』から『許す』に変わった一番の理由は何だろうか？」 【ピエロの立場】

本資料における中心人物はピエロである。『許せない』という心があったにもかかわらず、サムの姿を見ることで『許す』という心になった人物だからである。そこで、中心場面を「サムを許した（許し始めた）場面」とし、ピエロの立場から考える中心発問を設定する。導入で提示するフレーズ（後述）とも関連させながら、子供たちの発言を活用し、中心発問①②をベースとした発問を行うことで、『許す』を支える3つの側面「自分」「相手」「みんな」（自分の心を抑えること、相手を理解すること、二人以外の人のことを考えること等）に気付くことができるようにする。

立場・立ち位置の確認・転換を図る「補助発問」「問い返し」「交流の形態」等 ～Ⅱ

★補助発問・問い返し：「『許す』『許さない』を分ける線はどこにあるのか？」

「ピエロは「我慢」していたということですか？」 【ピエロの立場】

「もし『許さない』という判断をしていたら、どのような結果になっていた？」

「朝までピエロとサムは何を話していたのか？」 【結果の考察】

「いつでも、どこでも、誰に対しても同じことが言えるか？」

「自分を『許す』『許せない』という経験はあるか？その時の線も同じか？」 【普遍性・可逆性】

「『許す』という判断・行為は誰のためのもの？」

「『許す』上で最も大切になるのは何か？」

「世の中に『許せない』ことはないか？」

「あなたの中の『許す』『許さない』線はどこにある？」 【焦点化・自己理解】

中心発問において、ピエロの立場から『許す』を支える3つの側面「自分」「相手」「みんな」に気付くことができるようにする中で、下記のように思考がある1面に大きく偏る可能性が考えられる。

- | | |
|-------------------|----------------------|
| ・ピエロは我慢していた | →『許す』ことは自分が我慢すること |
| ・サムは悪いことをしたわけではない | →相手の行動次第で『許す』か否かが決まる |
| ・サムが一生懸命頑張っていたから | →相手の心情次第で『許す』か否かが決まる |
| ・よいサーカス団にするため | →「みんなのため」に『許す』のか 等 |

そこで、ピエロの立場のみならず、補助発問・問い返しを通して、「サムやその他の団員の立場」「客観的立ち位置（因果→結果の考察、普遍性、可逆性）」から『許す』について考えることができるようにすることで、ねらいとする価値の諸様相（「謙虚な心」：主として自分を指す矢印、「相互理解」：主として他者、もしくは双方向を指す矢印、「寛容の心」：主として自分と他者を含む集団を指す矢印）について気付くことができるようにする。また、授業全体を俯瞰して捉え直し、ねらいとする価値の側面から自己の生き方についての考えを深めることができるよう、焦点化・自己理解を促す補助発問・問い返しを行い、自分自身または人間としてという立ち位置へとシフトしていけるようにする。

★交流の形態：ペア（2・3人）交流の設定 【自分の現状への気付き、新たな視点の獲得】

本時においては、意図的な3人での交流場面を2度設定する（予定）。1度目は中心発問後、2度目は補助発問・問い返しを行いながら、多面的思考を促す場面に行う。1度目は、資料の中心場面における自分の現状（その段階における自分の考え）への気付きを促す目的で行い、2度目は、全体交流を行う中で、新たな視点（『許す』を支える3つの側面等）の獲得を促す目的で行う。どちらにおいても重要になるのが、児童の思考の流れを妨げないということである。状況に応じ、設定回数を増減させることも想定しておくことで、思考を広げたり深めたりすることができるようにしたい。

導入における「空所」「ずれ」「テーマ」等の提示、書く活動の設定、価値の一般化を促す発問 ～A

- ★導入の提示：「これまで誰か（何か）を許したことがあるか？」「許してもらったことは？」
：「許さないという判断をなぜしなかったのか？」
：「『許す』『許さない』を分ける線はどこにあるのか？」 【テーマの設定】

導入段階において主題にかかわる問題意識が芽生えるよう、『許す』『許さない』に関する経験や『許す』『許さない』の境界線がどこにあるのかを問う中で、主題「『許す』ということ」をテーマとして提示する。『許す』『許さない』に関する経験（具体）から、抽象である『許す』『許さない』を分ける線を問うことで、自己の生き方（経験）を見つめながら、主題にかかわる問題意識が芽生えるようにしていくとともに、中心場面及び展開後半へと有機的な関連を図っていくことで、ねらいとする道徳的価値に対する思考を広げ深めていく。

★書く活動：道徳ノートへの記述 【自分の考えの整理、自分のこれまで・これからを見つめる手段】

本時においては、書く活動を、中心発問後、展開後半の2度設定する（予定）。1度目は資料の中心場面において自分の考えを整理する手段として、展開後半では価値の一般化を促す発問と連動させることで、自分のこれまで・これからを見つめる手段として行う。ペア交流同様、必要に応じ設定回数を増減させることも想定しておくが、展開後半における書く活動は、多面的思考から多角的思考へとシフトした後の場面であることから、書くという行為を通じ、自己の生き方についての考えを深める（個への内面化）ことをねらうため、必ず行うこととする。また、個の学習状況の評価（≒授業評価）の手段としても活用していく。

- ★価値の一般化を促す発問：「自分が今後（誰かを、何かを）『許す』時に、何を大切にしたいですか？」
：「自分が今後（誰かを、何かを）『許す』時に、大切にしないでいけないことは何ですか？」
【テーマとの関連、実践意欲の喚起】

「何を大切にしたいか」「何を大切にしないでいけないか」を考える時、児童に限らず人は、これまでの自分の経験をもとに、自分に足りない部分（課題）に目を向けたり、理想とする姿を想像したりすることになる。また、「自分にとって」のみならず、「人として」という意識がこの時期の児童の一部には芽生えることも考えられる。『許す』という価値を多面的に捉えることができた上で、この発問を行うことで、「自分」や「人として」といった視点で、自己の生き方についての考えを深めることができるようにする。

(4) 本時の展開

学習活動	主な働きかけ・手立て	【評価】 個に応じた指導 (▲)
<p>1 これまでに誰かを許した経験を考える。また、『許す』『許さない』を分ける線について考え、本時のテーマを確認する。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・喧嘩をしたけど謝ってきた時に… ・嫌なことをされたけど、注意したらやめてくれたから… ・相手が反省しているかどうか『線』になるかな？ ・自分が許してもらった時は… </div> <p>2 ピエロがサムを『許さない』と感じている場面と『許す』場面がはっきりしているところを確認する。</p> <p>3 『許さない』『許す』を分ける線が変化した場面を考える。</p> <p>4 なぜピエロはサムを許したのか？『許す』『許さない』の線が変化した理由を考える。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>【相手の状況を知った】という視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サムが一生懸命演技している姿を見たから。 ・ただの自分勝手だと思っていたけど、そうではなかったから。 ・努力していることを知ったから。 <p>【謙虚な心】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分も…と考えたから？ <p>【相互理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サムも自分（ピエロ）と同じようにサーカスを成功させるため…に気付いたから。 <p>【寛容の心】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分（ピエロ）のことだけでなく、他の団員のことも考えたから？ <p>【自己理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分だったら… ・自分は、自分も… </div> <p>5 自分が今後何かを、誰かを『許す』時に大切にしたいこと、または大切にしないでほしくないことを考え、道徳ノートに記述する。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・相手のことを考え、自分の気持ちも大切に、しっかり理解し合うことを大切にしたい。 ・自分と相手だけでなく、その周りにいる人のことも考えて判断するべきかもしれない。 </div> <p>6 関連性のある資料の内容を聞きながら、本時の学習を振り返る。</p>	<p>□ これまでに誰か、または何かを許した経験がないかを問う。また、『許さない』という判断を行わなかった経緯もあわせて尋ねる中で、『許す』『許さない』の境界線には何かあるのかを問い、本時のテーマを確認する。</p> <p>□ 資料に出てくるピエロの『許す』『許さない』の線を探すよう伝え、資料を読み聞かせする。 A</p> <p>○ ピエロの『許さない』『許す』がはっきりしている場面を確認する。</p> <p>○ 『許さない』『許す』を分ける線が変化した場面を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>○ 中心発問①②を、児童の発言をもとに選択し行う。 手立て I</p> <p>○ 状況に応じて、3人での交流（自分の現状の考えへの気づき、新たな視点の獲得）を行う。 手立て II</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>□ 状況に応じて、書く活動（自分の考えの整理）を設定する。 A</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>○ 以下の視点（【授業評価の観点】）をもとに話し合いが行われるよう、補助発問・問い返しを行う。また、状況に応じ3人交流を設定する。</p> <p><資料の状況場面において> 手立て II</p> <p>【謙虚な心】 自分（ピエロ）も…という視点</p> <p>【相互理解】 相手（サム）は…相手が…お互いに…という視点</p> <p>【寛容の心】 周りのみんな（他の団員）のことを考えると…という視点</p> <p>【結果の考察】 許すことで…○○も…</p> <p><資料から自己の生き方へシフト></p> <p>【普遍性・可逆性】 いつでも、どこでも</p> <p>【自己理解】 自分は…、自分にとって</p> </div> <p>□ 自分が今後『許す』時に大切にしたいこと、しなくてはならないことを問い、書く活動（自分のこれまで、これからの見つめる手段）を設定する。 A</p> <p>○ 児童の記述や発言をもとに、関連性のある資料を提示し、本時の学習を俯瞰して捉え直すことで、日常場面における実践化の難しさと大切さを改めて感じられるようにする。</p> <p>※資料は2・3種類用意しておく。</p> <p>※押し付け的要素が強くなると判断した場合は、行わない。</p>	<p>▲ 導入時の児童とのやりとりを受け、『許す』『許さない』の線という抽象的なものを見つけるのが難しいと判断した場合、明らかに『許さない』場面で一度読み聞かせを止め、一問一答方式で状況確認を行う。</p> <p>▲ 自分の考えが整理できない児童に対し、他の児童の発言の中から一番納得いくものを選択するよう促したり、組み合わせるよう伝えたりする。</p> <p>【観察】</p> <p>▲ 自分の考えが整理できない児童に対し、他の児童の発言の中から一番納得いくものを選択するよう促したり、組み合わせるよう伝えたりする。</p> <p>【発言・道徳ノート】</p>